

## 令和6年度第2回浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会（議事録、資料）

1. 開催日時 令和7年3月6日（木） 午後7時～午後8時30分

2. 開催場所 浦安市文化会館大会議室

3. 出席者

（委員）

土井俊祐氏、副島克行氏、山田智子氏、飯田哲也氏、高橋秀人氏、境野浩次氏、大輪美保氏（代理）、鎌田和枝氏、内堀昭宣氏、小崎綾子氏、鈴木利彦氏、立島徹二氏、八木沼誠氏、榎本あゆみ氏、並木美砂子氏（福祉部長）

（事務局）

八田福祉部次長、森林中央地域包括支援センター所長、加納健康増進課長補佐  
鈴木浦安駅前地域包括支援センター長、浅野富岡地域包括支援センター長、  
浅地高洲地域包括支援センター長

高齢者包括支援課：雨宮課長、岡崎介護予防推進係長、鈴木、宇田川、岡崎  
（傍聴者）2名

4. 議題

（1） 浦安市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告

（2） 部会での検討について

- 浦安市の高齢者に関する状況
- ワーキング内容の報告
- 検討・意見交換

5. 議事の概要

委員長：今年度第2回目の検討会ということで、前回までは浦安市の在宅医療介護情報共有システムの今後のあり方について議論したが、ある程度方針が固まったため、今回は単身高齢者に関する状況の報告を踏まえて次年度以降の方針等を議論したい。

（1） 浦安市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告

事務局から、浦安市の事業の実績について説明した。

- エンディングノート「わたしの手帖」について
- 市民講座について
- 多職種連携研修会について
- 出前講座について

## (2) 部会での検討について

事務局から、部会での検討について説明した。

- 浦安市の高齢者に関する状況について
- 部会での検討について（ワーキング内容の報告）
- 検討・意見交換

委員長：事務局の説明にもあったとおり、政府の想定よりも15年早く少子化が進み、高齢化も急激に進んでいく状況である。浦安市において高齢者をケアしている医療・介護従事者の方は少数精鋭で頑張っているが、これから他地域と同じように高齢者が増えていく中で、どのように対策していくかということについて浦安市が試されているところである。

部会では単身高齢者への支援について、①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取りをテーマに議論したが、この4つの場面の中で取り組むべき課題を令和7年度に向けて、さらにブラッシュアップしている。そこで部会に出席している委員の先生方から、単身高齢者への支援についての議論の補足やご意見を伺いたい。

### 単身高齢者への支援についての議論の補足

委員：部会では医療、介護、在宅に直接関わっている分野それぞれ代表の方が参加して議論を進めているが、上記の4つの場面は医療でも介護でも両方密に関わる場所である。

今後、単身高齢者の方が増加する中で、単身高齢者をサポートするうえでさらに議論し、浦安市のモデルを作っていくことがこれから必要なのではないかと考える。医療面や介護面、経済的側面、キーパーソンをどのようにするかといった状況への対応を浦安市と具体的に考えていきたい。

委員：色々な職種の方との意見交換をすることが比較的少ないので、自分自身が部会に出席することで、勉強させていただいている。今後、どのように高齢者と関わっていくかについて考えていきたい。

委員：私の職種だと、高齢者の入退院時に関わることは比較的少ない。他の職種の方の困りごとがどのようなことなのかを知る機会も少ない。しかし、他の職種の方の対応の仕方、大変な部分を知っておくと、よりスムーズに高齢者へアプローチできる場所もあると思うので、多職種との情報交換は必要と考える。特に高齢者の急変時にすぐに薬が必要な状況も過去にはあったが、薬を届けられない現状があるので、薬局として地域の担い手となり、横の繋がりを持つことが重要だと考えている。

委員：単身高齢者への支援について委員の皆さんがざっくばらんに議論し、浦安市の事務局も上手にまとめていたと思うが、次の要因分析の段階ではそれぞれの職種でどのような関わりができるかということに改めて考えていく必要がある。私が議論に参加したときの議

題は急変時や看取りについてだったので、リハビリテーション専門職がその場面で何ができるのかについて話すことは難しかったが、リハビリテーション専門職でもできることがあるのかを考えることに加え、浦安市リハビリテーション連絡会の中でも共有して実践していきたいと思っている。

委員長：当然職種ごとに関われる場面は変わってくるが、他の職種が何で困っているのかが分からないことが多い。自分の職種からどのような支援ができ、逆に自分の職種がどのようなことで困っているかを発信することで、在宅医療・介護連携は進んでいくものだと思うので、部会のような機会を大事にしていだければと思う。

#### 単身高齢者への支援について、日々の支援を行う中で感じる課題

委員：当院でも単身高齢者への支援について、同様のディスカッションを2月に実施している。やはり単身高齢者について連携を進めていくことは、何かが起きた後に、また何か起きる前に病院として何かできることがあるのではないかと模索している状況である。外来患者の方で、困りごとを発見した際も、すぐに地域包括支援センターに連絡し、支援につなげていくために相談させていただいている。その他どのようにつないでいくかについては現状では模索段階である。

委員：看取りをする上で家族とご本人と周りの環境が同じ意見を持っているか、意見の相違はあるか、同じ方向に目を向けているかということが大事だと単身高齢者についてのグループワークで考えた。

委員長：病院と地域の方で連携して、新しく情報が伝わるようにすることが大事である。

委員：部会において、深く議論できたことの意味が大きい。私たち病院に所属している者は、なかなか病院から外に出ないので、在宅医療はどのように行っているかをイメージできるようになったため、在宅医療・介護連携推進委員会及び部会は、良い経験だと思っている。

病院で患者さんからエンディングノートを提出されることが少し増えている。感触としては浦安市の啓発活動により増えているのかなと思う。部会において単身高齢者の課題の内容の多くがお金についてだったので、お金で解決できることもあると感じた。部会において浦安市が在宅医療・介護連携推進に関わってくれていることは実感していて、とても良いと思っている。令和7年の要因分析・対策の検討に向けて、いいものができているとは感じている。

委員長：発言していただいた啓発活動の効果を伸ばすことができていることが非常に大き

な意味があると思うので、市民講座等もぜひ継続して実施していただきたい。

委員：課題の4つの場面（①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取り）のうち急変時の対応についてであるが、特に虐待のケースの際に、被虐待者が施設に入所する場合、今まで生活していた環境と変わってしまう。その中で施設は、被虐待者を元の生活に近づくように支援をしている。その支援の際に被虐待者の情報がなく、私たち福祉はどこまで対応できるのか困っている状況である。今後の浦安市の高齢者数の増加を考えると、虐待ケースはもっと増えていくと思っている。虐待ケースの時に事前に皆さんと共有できる情報があれば非常に助かる。

例えば、本人が内服している薬は何か。その薬は誰が管理しているのか、など情報がなく困っているので、そのような情報が浦安市の中で共有化できるようになっていくと、速やかに急変時の対応ができるようになるのではないかな。

委員：単身高齢者の課題について感じるところは、単身高齢者で身寄りがおらず、認知症を発症している場合、意思決定・判断が難しいことが多い。後見人がついていない場合、どこに誰に相談したらいいか、救急搬送の場合もどこに相談すればよいか困ってしまう。事前に、本人が認知症を発症する前に後見人制度などの制度を利用できたらいいいが、実際には本人が認知症を発症する前はそのような制度を利用しないことが多い。このような状況を今後どう判断していくか、どう行動していくかということが今後の課題ではないかな。

委員：訪問看護ステーションの場合、在宅医療を行っている本人や家族、医者、多くの他職種の方との連携も必要になってくるので、情報収集を最初のうちに行っていくようにはしている。4つの場面のうちの急変時の対応の場合、単身の高齢者の方自身がどうしたらいいか、分からない場合がある。

最近多いのは、突然介護者が亡くなり、介護を引き受けている若い世代。30代、20代の方が介護を引き継ぐと生活自体が変わってしまう。若い世代が「何をすればいいのかな」など、訪問看護ステーションに質問が来る。訪問看護ステーションでも対応できるものは対応していくが、それでも私たちが知らない部分もたくさんあり相談先がわからないこともある。そのため、エンディングノートを本人に書いてもらっている割には、最後どうしたらいいか、そのエンディングノートを持っている家族はどこに行けばいいかわからないというような介護者の問題が、切実に出てきていると思う。本人の情報に加え、高齢者本人だけでなく、家族に関する情報も整理する必要がある。

委員：ケアマネジャーは、4つの場面すべてに関わっている。その中で高齢者本人をどの機関につなげばいいか迷うことが多々あり、結局たらいまわしにされてしまうこともある。ま

たケアマネジャーは何でもお願いできると考えている方もおり、大変困っている。(例)入院手続きや荷物の運搬など。)そのため、ケアマネジャーができること、できないことを皆さんに知っていただきながら、その上でケアマネジャーがどのように行動したら高齢者本人が困らないのか、まとめていく必要があると考えている。

委員：包括支援センターでは特に、要支援者を対象とした日常の療養支援の際、高齢者本人のADLの低下によって自立した生活ができなくなったときに生活援助の支援者が不足していると感じる(例 買い物に行くことが難しい、家事ができないなど)。介護ヘルパーの利用には、要介護者・身体援助が必要な方が優先されることは理解している。そこを補完するため、浦安市では要支援者・総合事業対象者に対し「介護予防・日常生活支援総合事業住民主体訪問型サービス」(訪問B)という専門職ではない方が支援するサービスがあるが、担い手不足で支援できないケースもある。高齢者本人には訪問Bを利用してもらえば、より自立支援ができると考えていても必要なサービスにうまく繋がられない。高齢者数が増加するなかで、うまくサービスにつなげられない問題に対し、何か対策をしていかないと、今後、より大きな課題になるのではないだろうか。

また、高齢者のキーパーソンが不在で、1人ではお金を引き出せないケースに困っている。例えば医療機関に入院する際、高齢者が入院に必要なお金を銀行から引き出すといった際に、包括支援センターではお金の取り扱いに対応できないため、本人を銀行まで連れていく必要がある。それができない結果、入院ができないこともあり、安全な場所で高齢者本人に過ごしていただきたいのに、それができない課題もある。

委員長：担い手不足については、解決することが難しい。浦安市よりも先に周辺の市区町村の方がはるかに高齢者数の増加が進んでいくことを考えると、他市の例を参考に、担い手の確保をどうしていくか、また、何か他のサービスを立ち上げるなど考えていかなければならない。

## 医療介護の関係者、関係機関が連携し、解決できると思う課題について

委員：4つの課題を医療と介護が連携して、解決していかなければいけない。

特に、今後は在宅での看取り・病院での看取りが両方とも増えていくため、連携する必要がある。高齢者本人の意思もそのときによって変わるので、高齢者本人が在宅で最後を迎えたいときに在宅チームが動き、病院で最後を迎えたいときに病院チームにスムーズに移行できる仕組みづくりは、早急に整えなければいけない。

委員：医療と介護が連携するのは当たり前で、それこそ浦安市が関わり、より医療と介護の連携をうまく進める形になる方が良い。

委員：高齢者本人は、自身の意向を支援者には伝えるが、家族には伝えていない、という方もいる。家族内での意思の相違もある。単身高齢者で認知症の方のケースでは、キーパーソンもおらず、高齢者の意思も言動から推測がつかない。そのようなケースでは、医療機関での生命維持の判断はできるだけ高齢者本人から言葉で聞きたい。そのためにできるだけ事前に支援計画の記録を残すようにはしているが、人工呼吸器など、専門以上の事柄を医療機関から問い合わせがあると困ることがある。解決するには、簡易版エンディングノートをうまく活用できれば良いのでは。

委員：看取りの場所について、高齢者本人と家族の相違もあるが、高齢者本人の身体の状態によって変化することもある。私の場合は変更があっても良いと思う。その時に思ったことが大事なことだと伝えている。今、高齢者本人が感じていることをちゃんと周囲が受けとめて、最後は家にするのか病院にするのかは家族とよく相談して決めましょうという形で進めている。この医療介護の連携は必要なものだし、医療と介護が連携できれば単身高齢者の課題は解決されるのではと思っている。しかし、それぞれ職種の役割を果たさなければならない。行政が絡んでくるところはきっちりと絡んで欲しいし、中途半端に投げ出さないで欲しい。高齢者本人をある程度支援者に繋げたら終わりではなく、その方が最後どうなったかというところまで、興味を持って欲しい。

また、例えば高齢者本人をゴミ屋敷の自宅に返さなければいけないこともある。支援者はその中に入っていかなければならない。その様なケースを誰がどのように率先していくのかは決められないけれども、ある程度そこに行政の力がないと私たちだけでは困難な時も多くある。ごみの問題1つとっても、片付けるためにごみを出したけどそのごみを収集してもらうのに1週間2週間かかってしまうと、周囲から苦情が来てしまう。苦情が来ると片付けが進められなくなることもあるので、単身高齢者数が増加すると問題が増えてくると思う。医療介護連携だけではなく、関係者がすべて連携をし、1つのチームが完結するまで、行政もちゃんとチームに入って欲しいと思う。その役割を議論し、役割が被っても

いいので、明確になればよいと思っている。

委員長：病院での情報収集の場合、診療情報提供書はあるが、診療情報提供書の中には高齢者本人の社会的な背景の情報まで入ってこない。高齢者本人の詳細な情報を共有するためには難しいところであるが、そのひとつが情報共有システムツールだと思っている。令和9年度に向けて情報共有システムについて議論していただくとともに浦安市の方からも今後どのようにしていくべきか意見を伺いたい。

委員：単身高齢者をどうつないでいくのかという問題では、現在他市の対応状況の情報収集を行っており、今後は市内の医療機関や介護事業者と協議し、体制を整えていく必要があると考えている。

また、要介護認定の状況では、やはり前期高齢者の方の認定率がとても低いというのは、高齢者の方の健康度が高いという裏返しだと思う。なるべく元気な高齢者を地域の中での支え合いの仕組みにどう活かしていくのかを、浦安市としても考えて進めている。浦安市ができることはしっかりとさせていただきながら、医療介護連携を進めつつ、高齢者の方が住み慣れた地域で過ごせるような対策を引き続き考えていきたいと思う。それには、また皆さんのご意見をいただきながら進めていきたいと思うので今後ともよろしくお願ひしたい。

委員：なかなかすべての課題を一度に解決はできないが、その中で緊急性の面で優先順位をつけるしかないと思っている。それには委員の先生方が、今まで過去経験した困難事例を、共有し、振り返りながら、あの時こういうことがあれば問題を回避できたかもしれない、というフィードバックを積み重ねていくと、新しく私たちが持たなければいけない仕組みがあるのではないかと思う。困難事例のケース会議を評価をしてみて、そこから私たちが持たなければいけない仕組みを見い出せば、何か新しいものができるのではないか。

施設として、困難事例の高齢者を緊急的に受け入れる時に、ご本人の状況が把握できないため受け入れられないこともあった。その議論を積み重ねていく部会があるのもいいのではないかと思っている。

委員長：次年度において、課題要因分析の段階で、いろんな事例の検討等をする機会があると思うので、ぜひそのときに困難事例の評価を取り入るのも良いのではないか。

委員：今回で現在参加していただいた委員の皆さまの任期が終わるということになった。情報共有システムのことや、今後の在宅医療・介護連携については、引き続き浦安市としても取り組んでいく大事な課題、また対策だと考えているので、引き続きご協力をいただきながら進めていきたい。

令和6年度 第2回 浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会

令和7年3月6日(木)

19時00分から20時30分

浦安市文化会館大会議室

1. 委員長挨拶

2. 議題

(1) 浦安市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告

(2) 部会での検討について

- 浦安市の高齢者に関する状況
- ワーキング内容の報告
- 検討・意見交換

3. 連絡事項

令和6年度

第2回 浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会

---

令和7年3月6日(木)  
19:00~20:30

# 内容

---

## 1. 浦安市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告

## 2. 部会での検討について

- ・ 浦安市の高齢者に関する状況
- ・ ワーキング内容の報告
- ・ 検討・意見交換

# 浦安市在宅医療・介護連携推進事業 活動報告

---

# 浦安市在宅医療・介護情報共有システム

ID登録者数

188名

ID登録機関

34機関

患者部屋

5部屋

## 今後の方向性

- 令和9年度まで現システムを使える場面で利用し続け、市で統一したICTシステムの利用方法やR9年度以降のICTシステムについて検討をする。
- 令和8年度の第1回委員会を目安に、改めてシステムの「必要性」「内容(機能)」等について検討を進める。

# わたしの手帖(エンディングノート)

- 作成:6,000部
- 配布数:5,802部 (2月末時点)

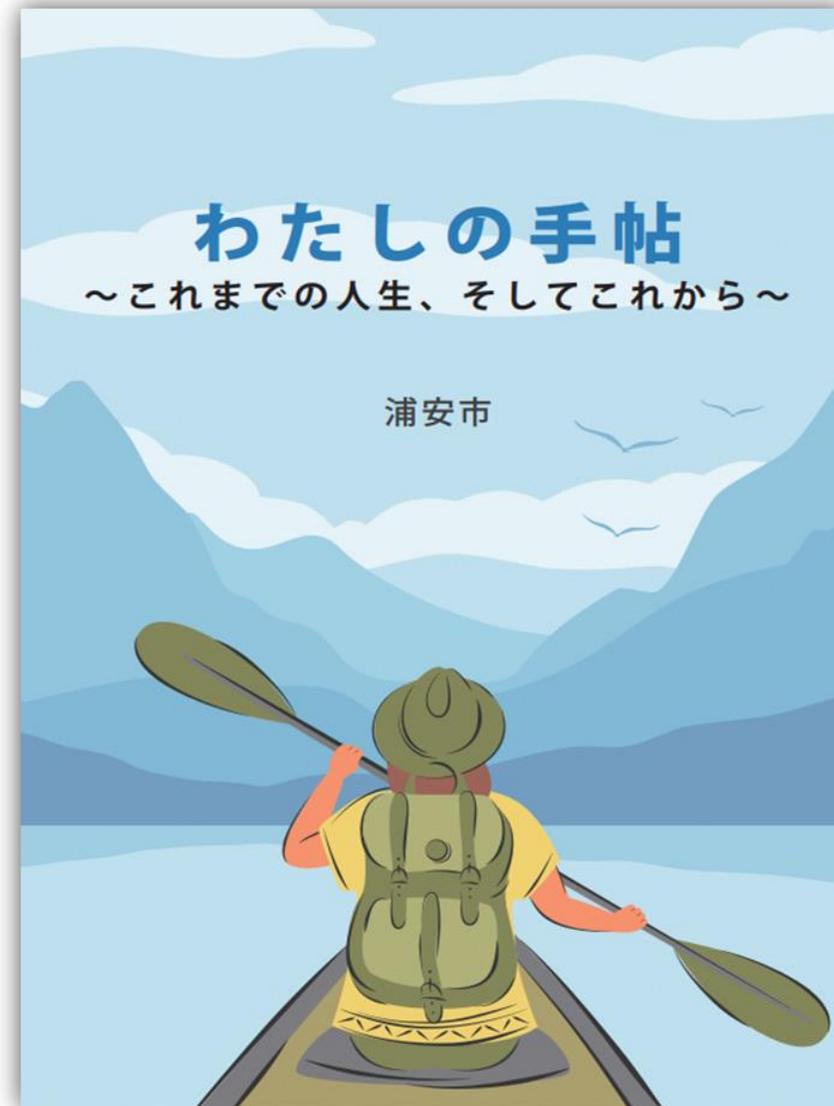
配布先	部数
市民 (個人)	310
市民 (老人クラブ、サロン等)	286
市主催イベント参加者	2,469
市関係機関 (ともづな等)	566
医療機関	1,414
介護事業所	737
その他	20
計	5,802

## 令和6年度の配布先の特徴

自らが運営するサロン等で行う、在宅医療・介護に関する研修会の資料としての利用が多くあった。

## 今後の課題

手帖を手にした市民がどのように活用しているかの把握。



# 市民講座 いま、考えること～あなたが望む人生を生きるために～

実施日:8月19日(月)

場所:浦安市文化会館 大会議室

## ● 講師

国際医療福祉大学・大学院

医学部医学教育統括センター 教授

荻野 美恵子 氏

## ● 内容

- ・ACP(アドバンス・ケア・プランニング)について
- ・先生が関わった在宅医療・介護に関する事例の紹介

## ● 参加者 177名

令和6年度 在宅医療・介護連携推進事業

# 市民講座

いま、考えること

8月19日(月)  
10時00分～  
11時20分

講演講師  
国際医療福祉大学医学部  
医学教育統括センター副センター長  
国際医療者教育学・脳神経内科学大学院  
医学研究科教授  
荻野 美恵子 氏

長年、最前線で患者の意思決定支援を  
されている荻野美恵子先生を  
講師にお迎えし  
「最後まで自分らしく暮らしたい」を  
実践するために必要なことについて  
お話いただきます。

無料

会場  
浦安市文化会館 小ホール  
浦安市猫実一丁目1番2号 (市役所 隣)  
浦安市文化会館の専用駐車場はございません。  
公共交通機関をご利用ください。

申込方法  
7月16日(火)9時から8月15日(木)まで  
①、②いずれかの方法で  
① 電話で高齢者包括支援課へ  
☎ 047-712-6389  
② 右記QRコードから

対象者  
浦安市に在住、在勤の方  
先着200名(事前申込必要)

【主催・問い合わせ】 浦安市高齢者包括支援課 電話:047-712-6389

# 市民講座 いま、考えること～あなたが望む人生を生きるために～

## 【申込者年代】

	人数
20代	1
30代	1
40代	7
50代	19
60代	25
70代	113
80代	56
90代	3
不明	11
合計	236

## 【人生会議を知っているか】

	人数
1. よく知っている	17
2. 聞いたことはあるが良く知らない	47
3. 知らない	76
未回答	4
合計	144

# 市民講座 いま、考えること～あなたが望む人生を生きるために～

## 【終活に取り組んでいるか】

	人数
1. 取り組んでいる	71
2. 取り組んでいない	70
未回答	3
合計	144

## 【取り組み内容】

	人数
1. 物の整理・片付け	56
2. お金の準備	31
3. エンディングノートの記入	32
4. 人生会議	5
5. 旅行や趣味を楽しむこと	35
6. 遺言書、相続の準備	22
7. お葬式の準備	10
8. お墓の準備	29
9. パソコン、スマートフォン等のデータ整理など	9
10. その他	3

※複数回答あり

# 市民講座 いま、考えること～あなたが望む人生を生きるために～

## 参加者の感想 (抜粋)

- ・自分らしく生きることについて考える機会になりました。
- ・死について考えることは怖いですが、終活をしていくことで人生を送るのに明るく生きられるように感じられました。
- ・話は理解できたが考えねばならないことが多くて困る。
- ・改めてピンピンコロリに理想を求めるが、ピンピンコロリが1番難しい事。
- ・延命治療について考えなおしました。
- ・在宅での医療、介護の仕方等具体的に知りたかった。
- ・家族がいない1人暮らしの人はどうしたら良いか分からない。

# 市民講座 語りの会

実施日:9月19日(木)

場所:浦安市文化会館 大会議室

## ● 講師(ファシリテーター)

タムス浦安病院

地域連携室 室長 村瀬 恵子 氏

## ● 内容

「もしバナカード」を使い、自分の人生の最終段階の過ごし方について参加者同士で語り合う。

## ● 参加者 20名

年代	人数
80歳代	7名
70歳代	7名
60歳代	3名
50歳代以下	3名
計	20名

浦安市 在宅医療・介護 市民講座

## 語り会の会

2024年9月19日(木)  
10:00~11:30  
参加無料

『もしバナゲーム』を用いて  
最期まで自分らしい暮らしを送ること  
について参加者同士で考えます。

『もしバナゲーム』は  
あなたと大切な方が  
「もしものための話し合い(=もしバナ)」をする  
きっかけを作るためのゲームです。  
人生において大切な「無価値」や、自分自身の「在り方」について  
気づきを得ることが出来ます。

講師:タムス浦安病院 地域連携室室長 村瀬恵子氏

**会場**  
浦安市文化会館 3階 大会議室  
浦安市猫実一丁目1番2号(市役所隣)  
浦安市文化会館の専用駐車場はございません  
公共交通機関をご利用ください

**申込方法**  
9月2日(月)9時から9月17日(火)まで  
①②いずれかの方法で  
①電話で高齢者包括支援課へ  
☎047-712-6389  
②右のQRコードから

**対象**  
浦安市に在住、在勤の方  
先着30名

【主催・問い合わせ】浦安市高齢者包括支援課 電話 047-712-6389

# 市民講座 語りの会

## 参加者の感想 (抜粋)

- ・「もしバナカードゲーム」は初めてでしたが皆さんの話が聞けて参考になりました。
- ・死生観や深いところにある価値観は普通他人と話せることではないので聞く事ができるのは豊かな機会でした。
- ・「あうん」の呼吸ではわからないことがある。互いの経験で自身の考えが修正される。
- ・今の自分が大切にしていることが分かった。
- ・初めて参加しましたが、同年代の人の話が聞けてよかったです。
- ・こういう企画は続けてほしい。

# 多職種連携研修会

医療・介護関係者向けのACP研修会 ～その人らしい生活を支援するために

実施日:9月27日(木)

場所:浦安市役所 4階会議室

## ● 講師

国際医療福祉大学・大学院

医学部医学教育統括センター 教授

荻野 美恵子 氏

## ● 内容

- ・ ACPの概念、変遷(なぜACPが重要となっているか)
- ・ 医療・介護のチームとしてACPを実践する重要性
- ・ ACPのメリット・デメリット

● 参加者 49名

職種	人数
医師	2
歯科衛生士	1
薬剤師	6
看護師	9
保健師	2
ケアマネジャー	7
リハビリテーション専門職	5
社会福祉士	6
介護福祉士	2
生活相談員	2
施設管理者	2
無回答	5
計	49

# 多職種連携研修会

医療・介護関係者向けのACP研修会 ～その人らしい生活を支援するために

## アンケート結果 (抜粋)

### 【研修会で取り上げてほしい内容】

- ・今回の内容(複数)
- ・退院調整や連携について続編
- ・看取り、カンファレンス、認知症を抱える家族への支援
- ・認知症関連の研修会をお願いしたい。ACPも含めて
- ・地域の高齢化に対する取り組み
- ・市民の声を拾うには、市民が声を届けるにはどうすればよいか

### 【感想】

- ・事例検討会の研修に参加したいです
- ・ACPの表面は理解していたつもりだったが、その本質であったり心構え、実際のデータを知れたことで、ACPについてもっと理解しようという気持ちになった。
- ・今回初めての参加です。ACPについて多職種の方の話が聞けて良かったのと、先生の講義の内容が今後自分の仕事をする上でとても役に立つものでした。
- ・多職種とのコミュニケーションを図る場が多くあると良いかと思います。

# 出前講座

● **回数:4回**（地域の専門職の講話実施:2回）

● **主な内容**

- ・市の在宅医療・介護連携推進事業に関する取り組みについて
- ・「わたしの手帖」の使い方、書く目的について
- ・もしバナゲーム
- ・地域の専門職の講話

● **出前講座講師**

医師会副会長 山田 智子 氏（ひまわりクリニック）

浦安市訪問看護ステーション連絡協議会 小野田 雄太 氏（マイケル訪問看護ステーション）

# 部会での検討について (浦安市の高齢者に関する状況)

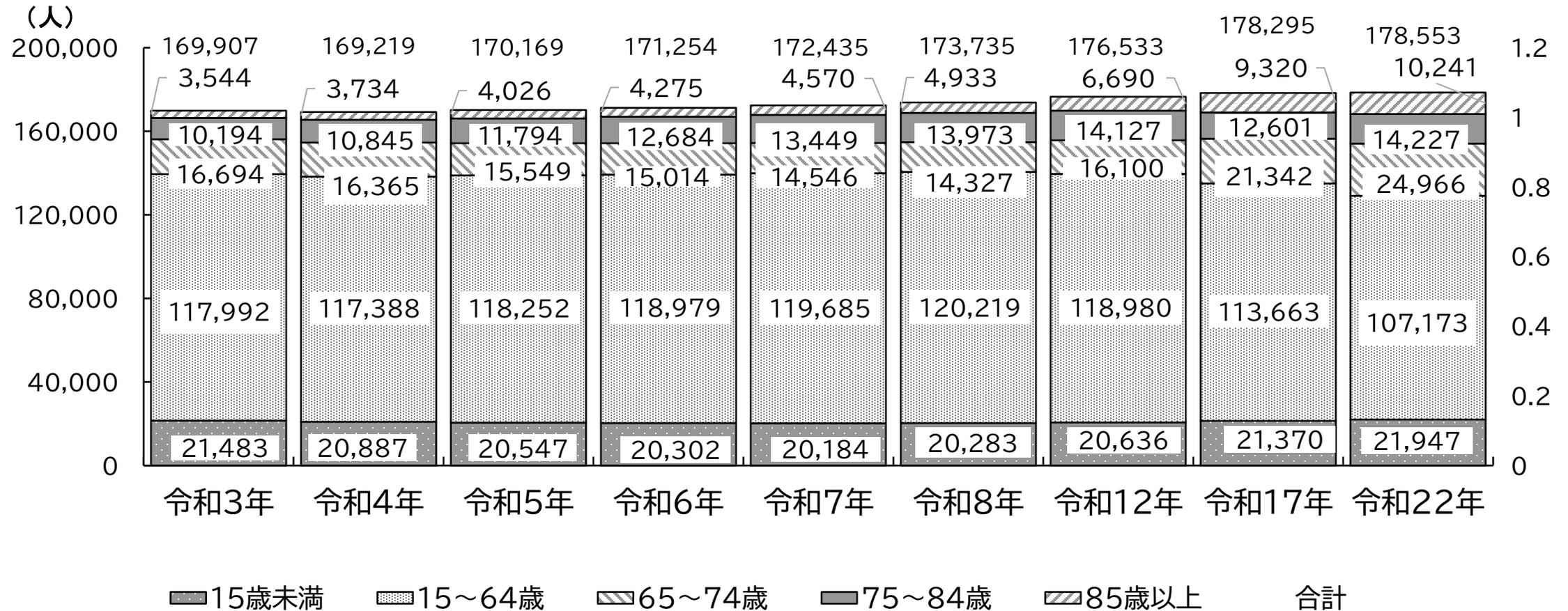
---

検討テーマ

単身高齢者等への支援について

# 本市における将来人口と高齢化率の推移

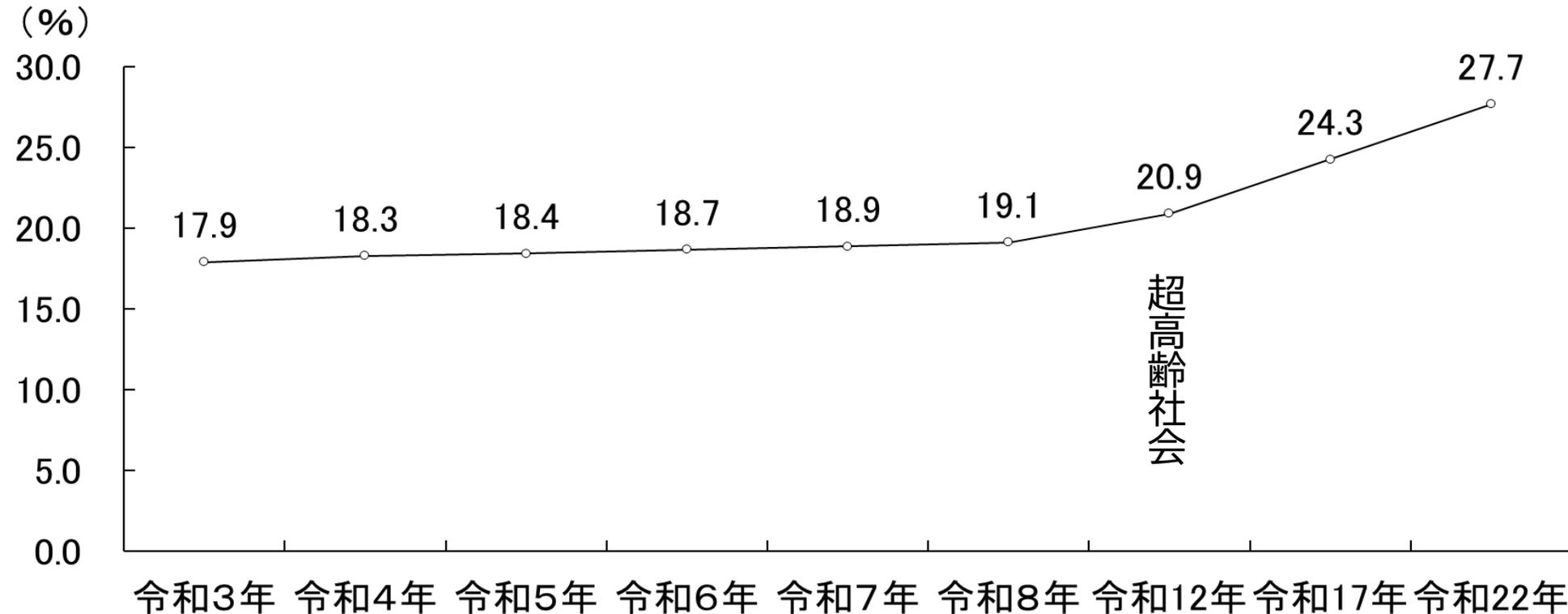
◆ 高齢者人口が増加する一方で、生産年齢人口は減少する。



資料:浦安市高齢者保健福祉計画及び第9期浦安市介護保険事業計画

# 高齢化率の将来予測

- ◆ 令和12年を目途に超高齢社会に突入することが予想される。
- ◆ 令和12年以降に高齢化率が急激に上昇する見込み。



# 圏域別高齢者人口・高齢化率

- ◆ 中町圏域の高齢者数、高齢化率が他圏域と比較し高い。

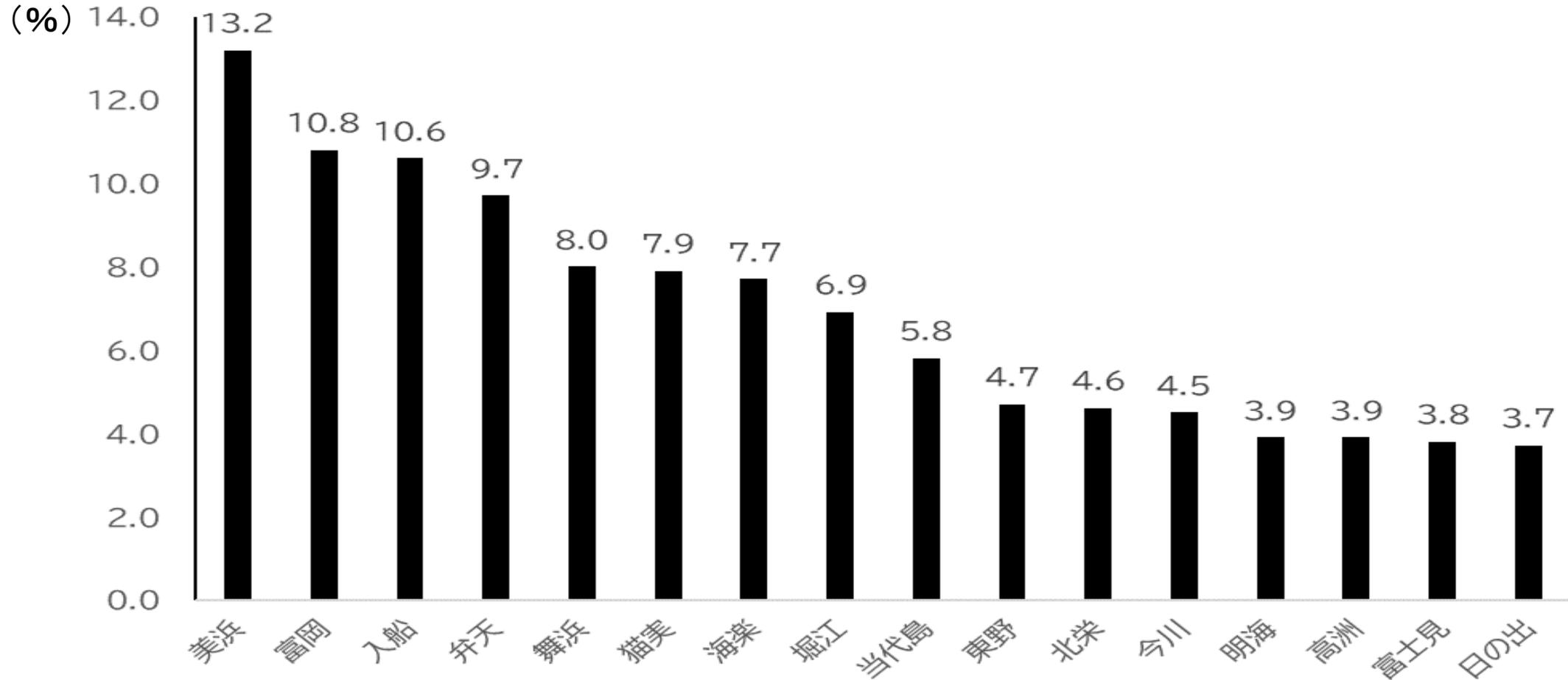
	合計	元町圏域	中町北部 圏域	中町南部 圏域	新町圏域
総人口 (人)	170,406	72,114	24,950	31,522	41,806
高齢者数 (人)	31,372	10,186	7,735	7,670	5,779
高齢化率 (%)	18.4	14.1	31.0	24.3	13.8

(令和5年4月1日時点)

資料:浦安市高齢者保健福祉計画及び第9期浦安市介護保険事業計画

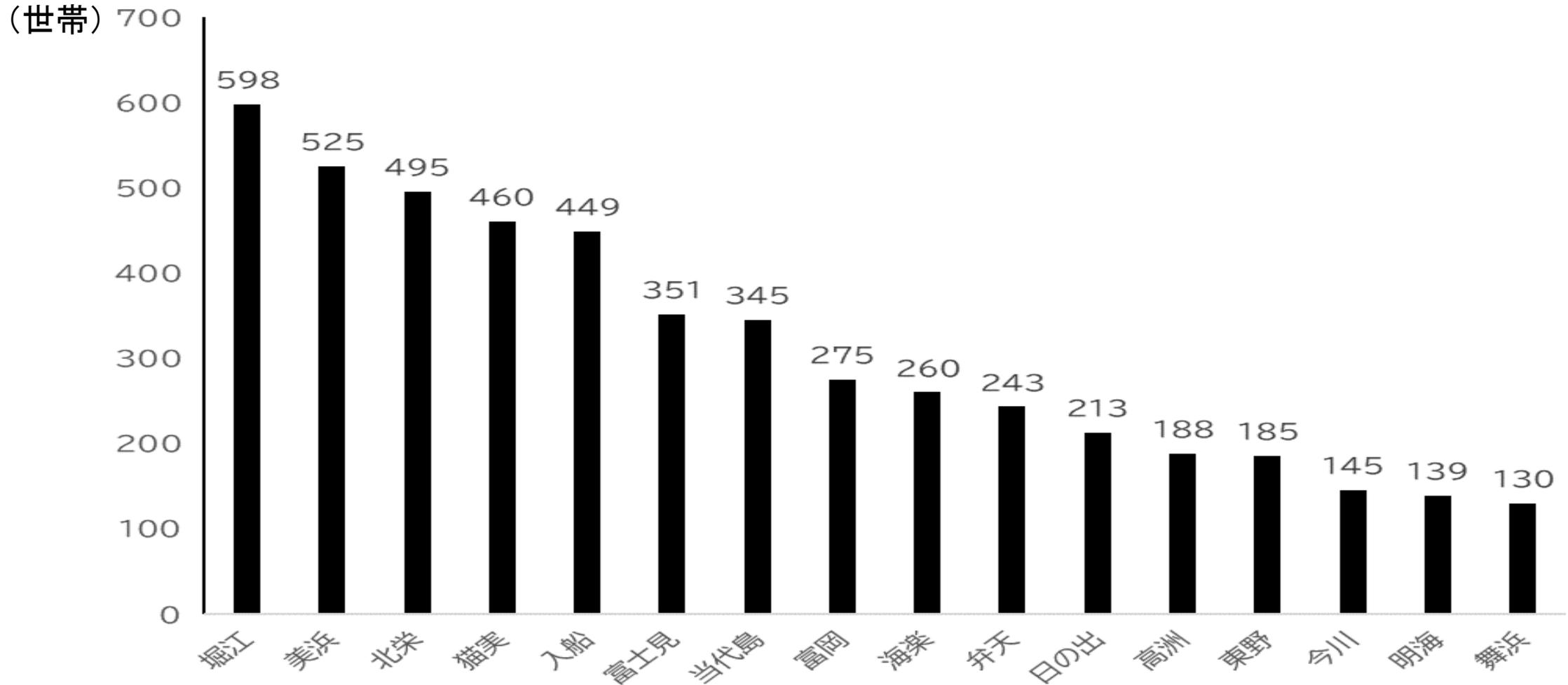
# 字別高齢単独世帯率/全世帯

◆ 昭和50年代に入居が始まった中町地域が高くなっている。



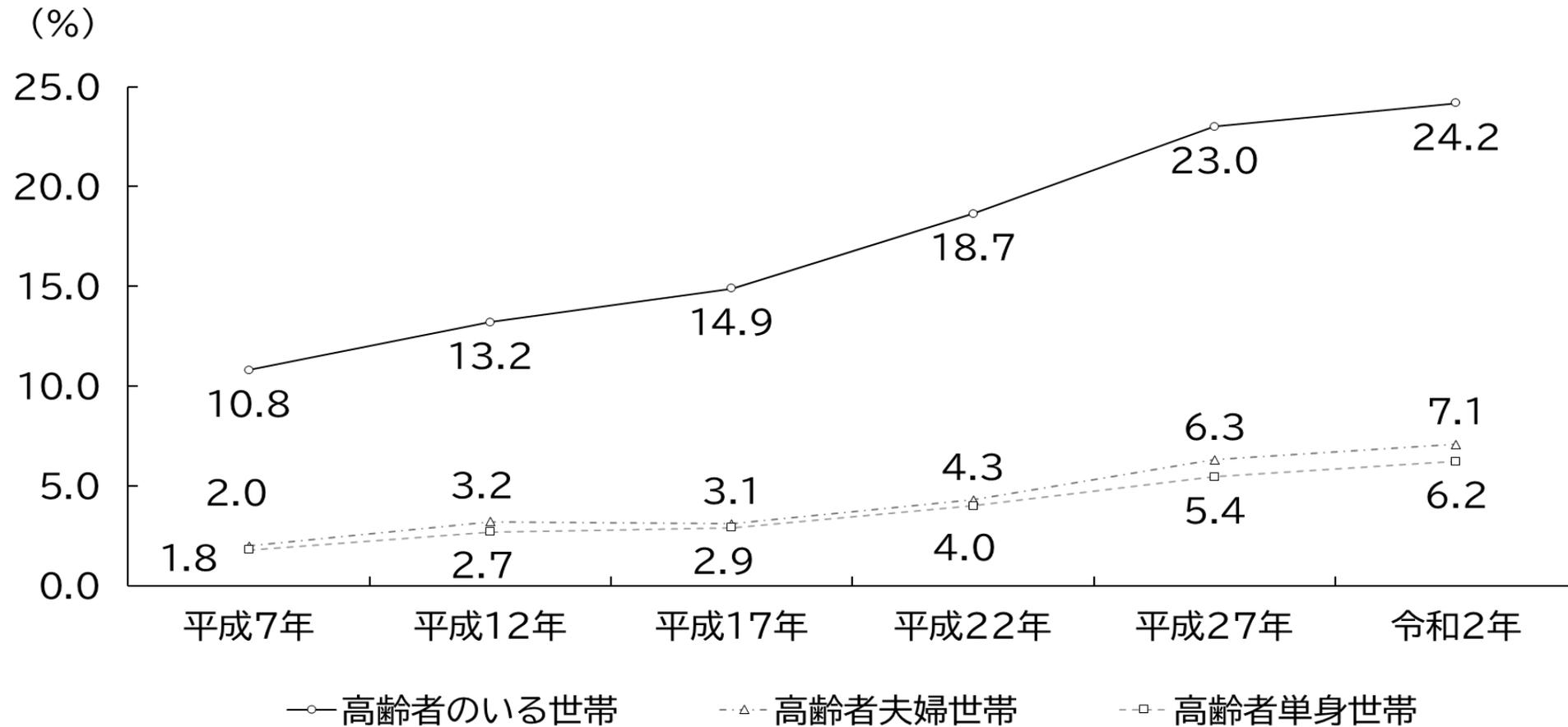
# 字別高齢単独世帯数

◆ 元町地域と新浦安周辺地区が多くなっている。



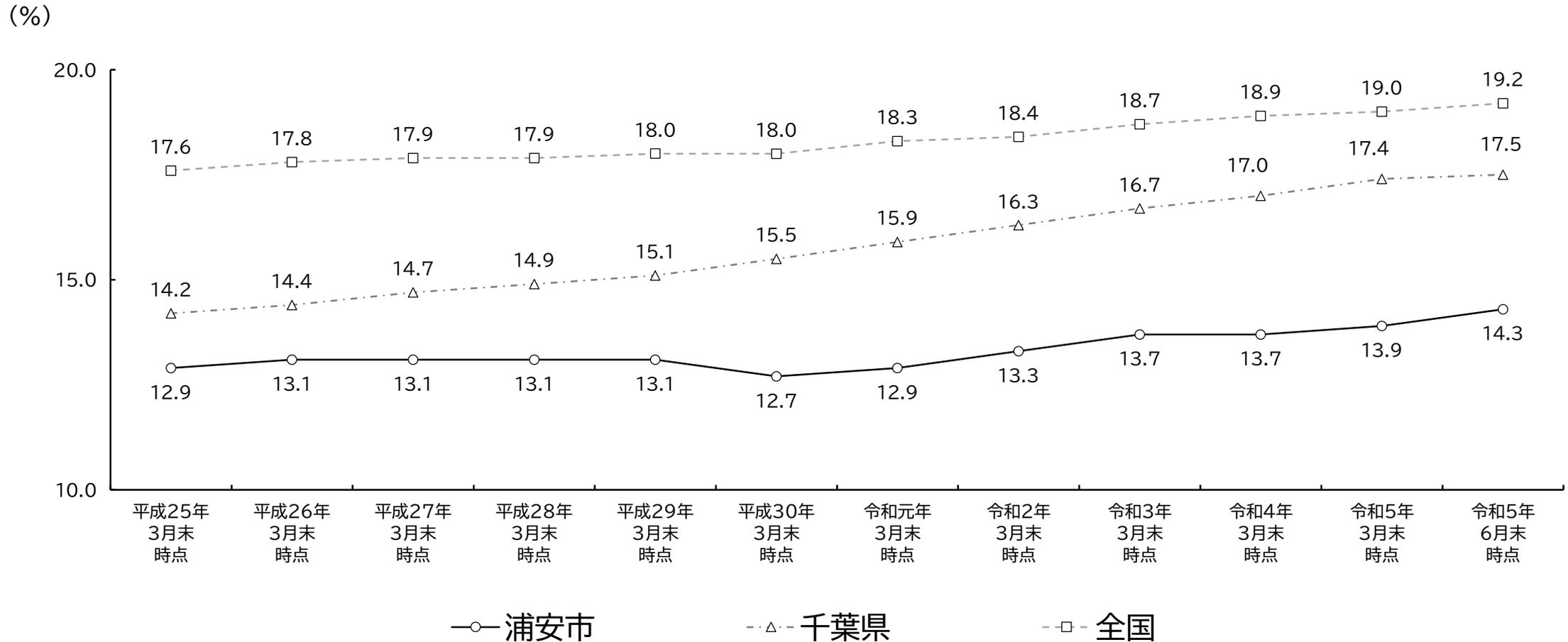
# 高齢者世帯の状況

◆ 高齢者単身世帯は25年間で3.5倍近く増加している。



# 全国・千葉県と比較した要介護(要支援)認定率の推移

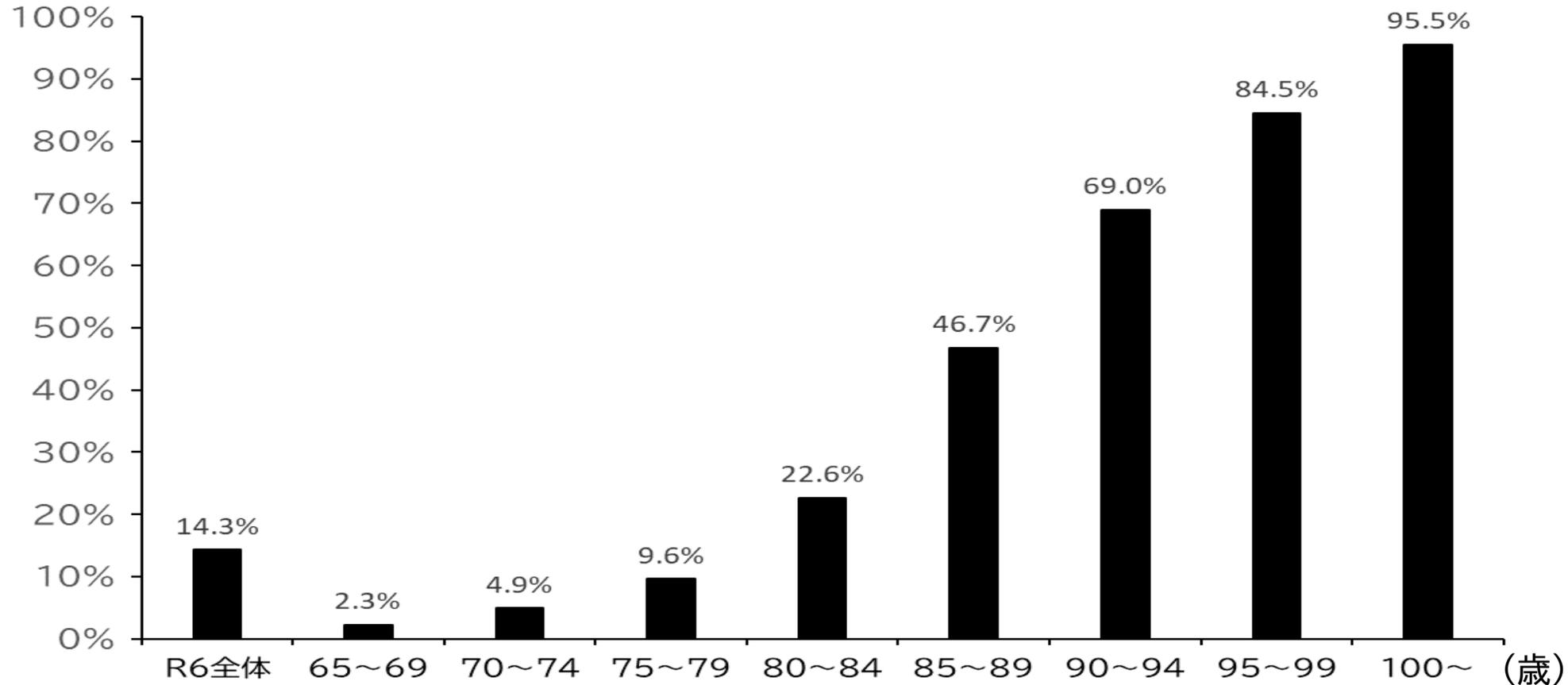
◆ 平成30年に減少したものの、令和2年3月末以降、ゆるやかに上昇。



資料:浦安市高齢者保健福祉計画及び第9期浦安市介護保険事業計画

# 令和6年 年齢別介護保険認定率

- ◆ 80歳～認定率が増加する。
- ◆ 85歳～89歳で認定率が約50%（認定を受けている方といない方が半々）。



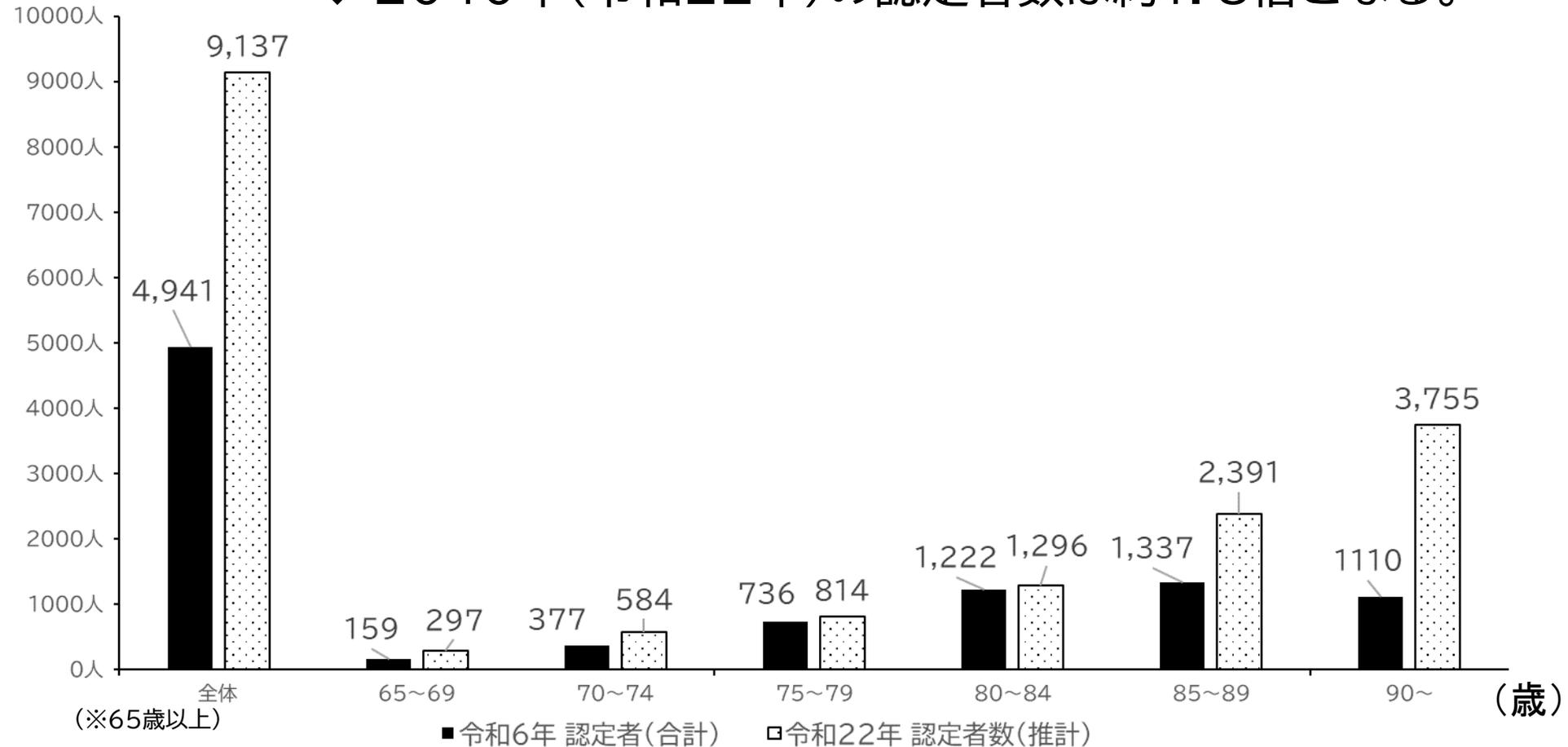
※ 住民基本台帳(人口データ)と介護保険認定者のデータを基に高齢者包括支援課が算出したものです。

資料:令和6年浦安市住民基本台帳及び介護保険認定者数より作成(10月1日)

# 年齢別介護保険認定者数の将来推計

※認定率は令和6年と同じと仮定して…

◆ 2040年(令和22年)の認定者数は約1.8倍となる。



※ 住民基本台帳(人口データ)と介護保険認定者のデータを基に高齢者包括支援課が算出したものです。

資料:人口推計データ及び介護保険認定者数より作成(10月1日)

# 階級別 認知症高齢者数(推計)

## 認知症高齢者の日常生活自立度 II以上

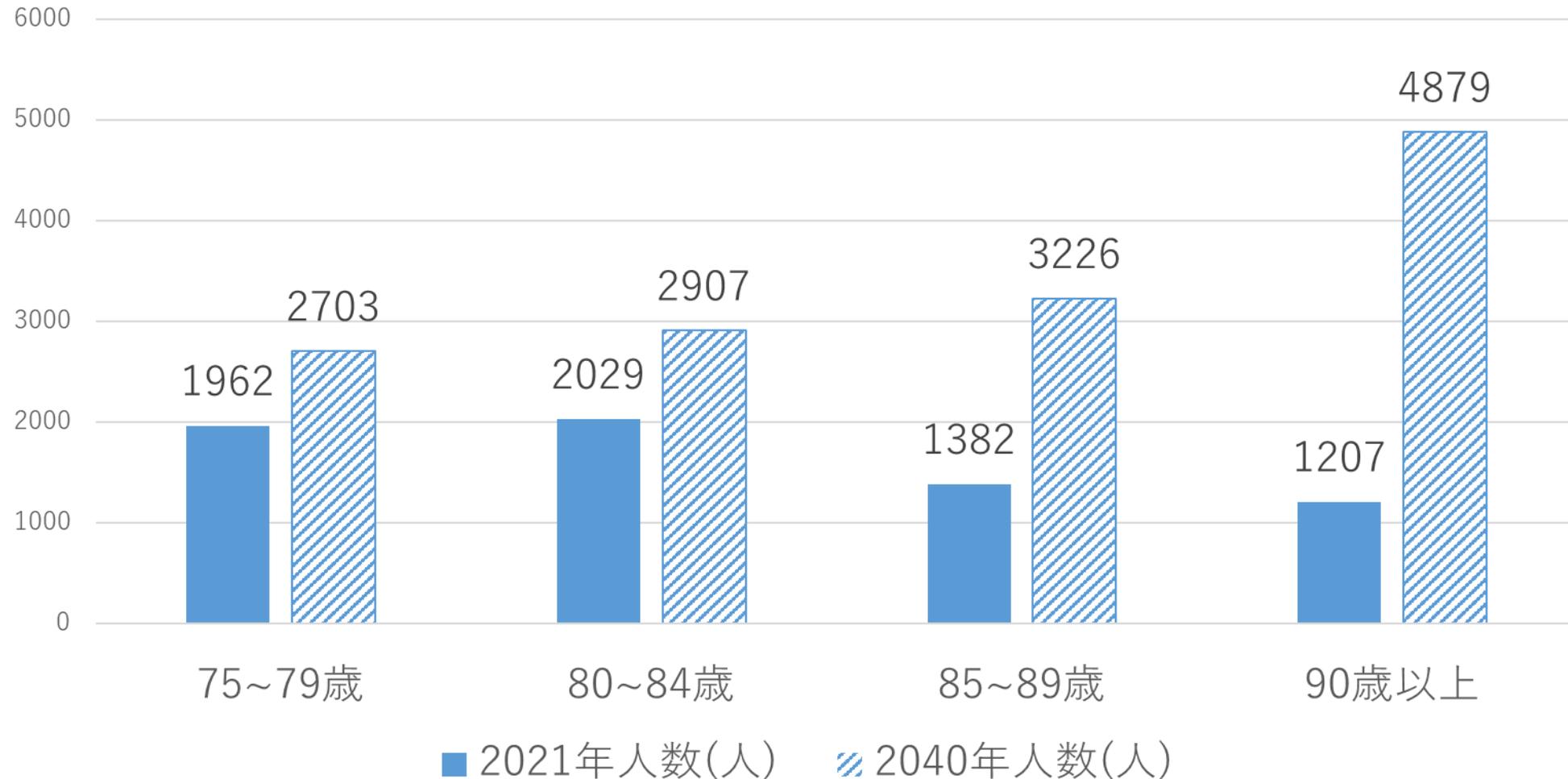
	令和3年(2021年)	令和4年(2022年)	令和5年(2023年)	令和6年(2024年)
65~69歳	241	235	228	229
70~74歳	440	435	405	378
75~79歳	887	921	1,023	1,093
80~84歳	891	991	1,062	1,175
85~89歳	941	1,012	1,113	1,183
90歳以上	896	960	1,011	1,064
計	4,296	4,454	4,842	5,122

単位(人)

資料:筑波大学 朝田隆名誉教授認知症の人の有病率に関する研究結果より

# 浦安市の認知症及びMCI(軽度認知症)の方の将来推計

◆ 2021年 約6,500人 → 2040年 約14,000人 約2倍になる見込み。



資料:筑波大学 朝田隆名誉教授認知症の人の有病率に関する研究結果より

# 浦安市の高齢者に関する状況を踏まえて

高齢化の進展、単身、夫婦のみで暮らす高齢者の増加、社会や家族形態の変化に伴い、老老介護や若年世代による介護、育児と介護や両親介護などいわゆるダブルケアなどによる介護負担問題のほか、経済的不安を抱える世帯や、家族介護ひきこもり、8050問題、孤独・孤立、セルフネグレクトなど支援が必要なケースが顕在化してくる。



在宅医療・介護の関係者(機関)が連携し、高齢者(単身高齢者等)への支援について検討を深める必要性がある。

# 部会での検討について (ワーキング内容の報告)

---

## 検討テーマ

単身高齢者等への支援について

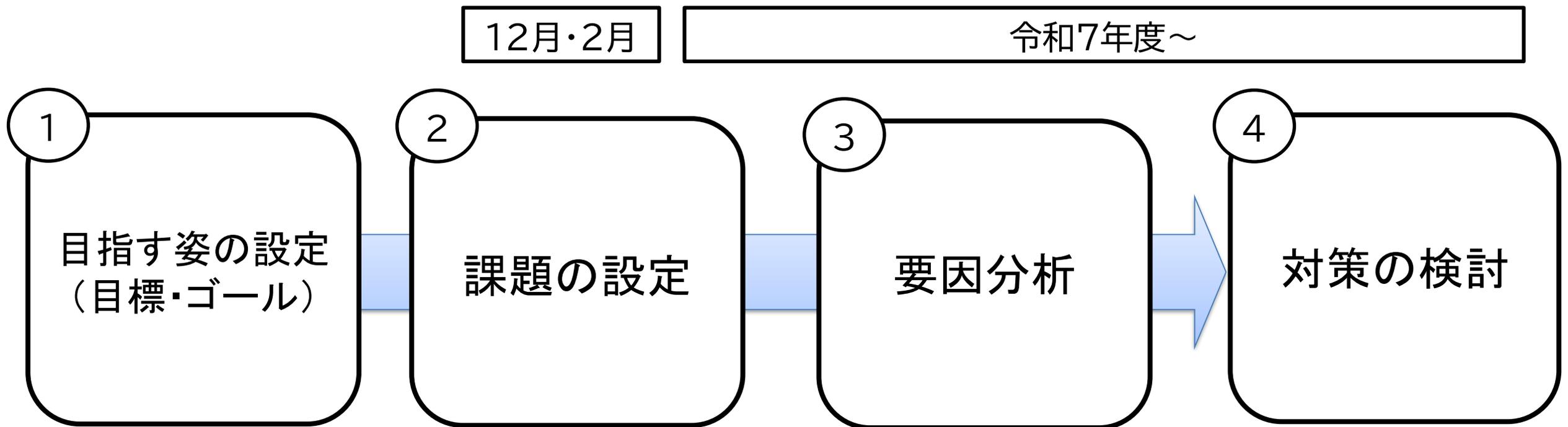
# ワーキング内容の報告

単身高齢者等への支援について検討を進めるために・・・

- 目的や課題を明確にする
- スケジュールを部会員で共有する

# ワーキングのスケジュール・目的

「単身高齢者等への支援」に関する検討を進めるために必要な4つのプロセス



・浦安市高齢者福祉計画

- ・現状の把握
- ・課題の抽出
- ・取り組むべき課題の絞り込み
- ・あるべき姿の設定

効果的な対策を実行するために、現状を引き起こしている要因の分析を行う

現状を目標姿に近づけるための対策検討

# 在宅医療における浦安市の目標

1

目指す姿の設定  
(目標・ゴール)

## 浦安市高齢者保健福祉計画

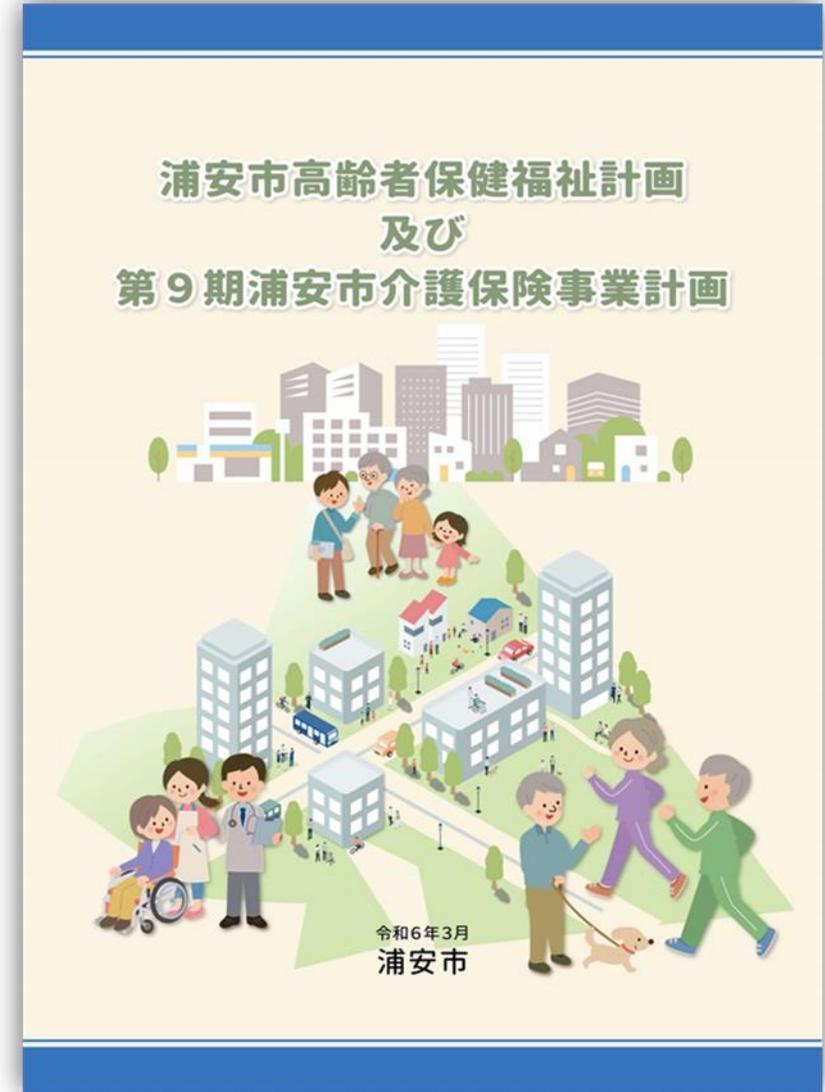
### 【基本理念】

人とつながり、高齢者が安心して、生き生きと暮らせる  
地域社会を目指す。

### 【基本目標】

在宅医療・介護の連携により・・・

高齢者が自分らしく安心して生活する。

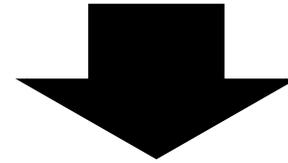


# 具体的な課題(あるべき姿)の設定

2

課題の設定  
(12月・2月)

【基本目標】 高齢者が自分らしく安心して生活する。



具体的な課題を  
設定する作業

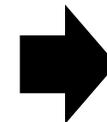
現状の把握



課題の抽出



取り組むべき  
課題の絞り込み



目指す姿の設定

# 現状の把握・課題抽出(グループワーク)

## 事前アンケート

単身高齢者(身寄りのない高齢者)等への支援を行う中で「課題に感じること」「困っていること」

12月

日常の療養支援

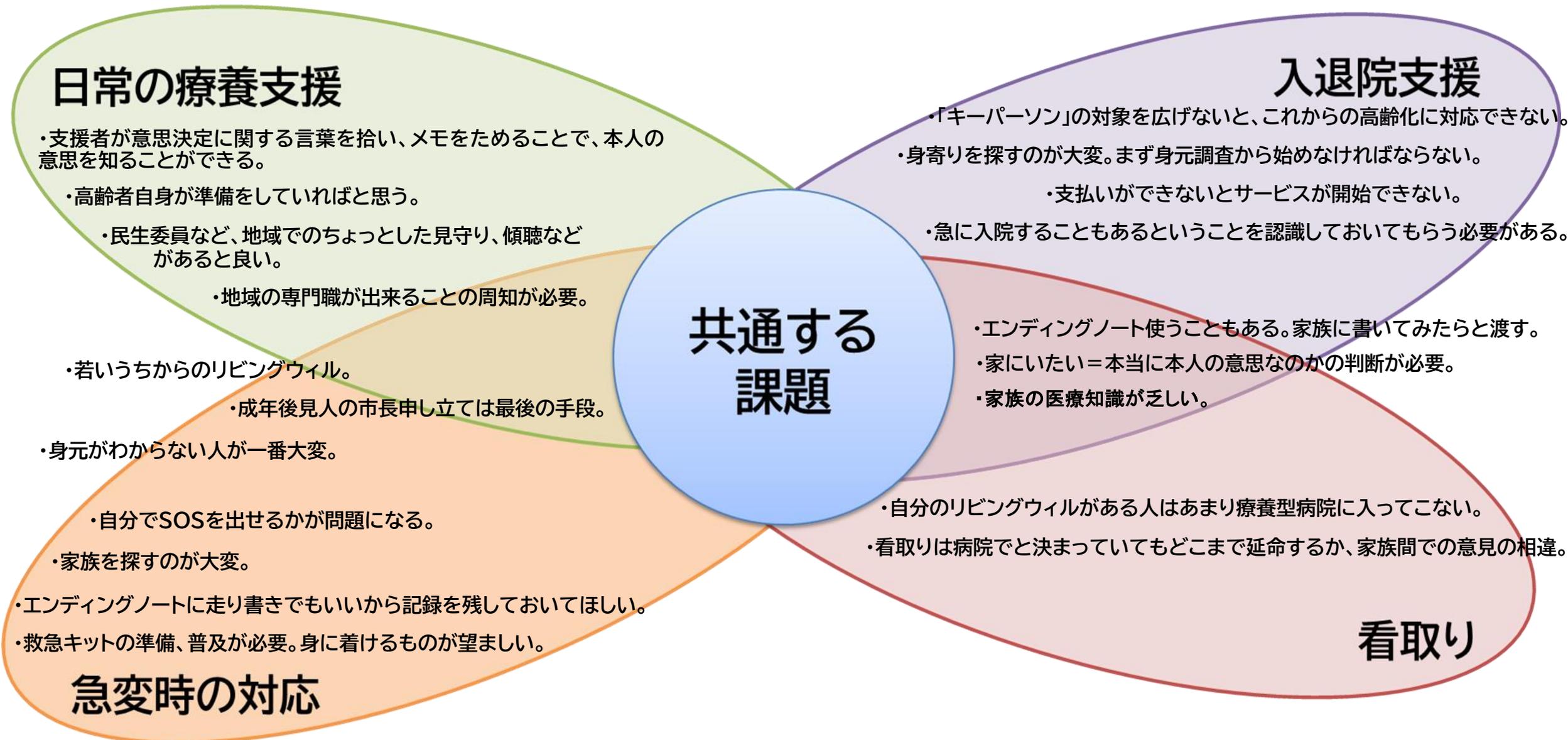
入退院支援

2月

急変時の対応

看取り

# 現状の把握・課題抽出(グループワーク)



# 現状の把握・課題抽出(グループワーク)

機関同士・行政  
との連携

あったらいいなと  
思うサービス

高齢者支援に  
関する制度

高齢者に  
準備してほしいこと

お金の問題

意思決定

簡易版  
エンディングノート

キーパーソン・緊急連絡先

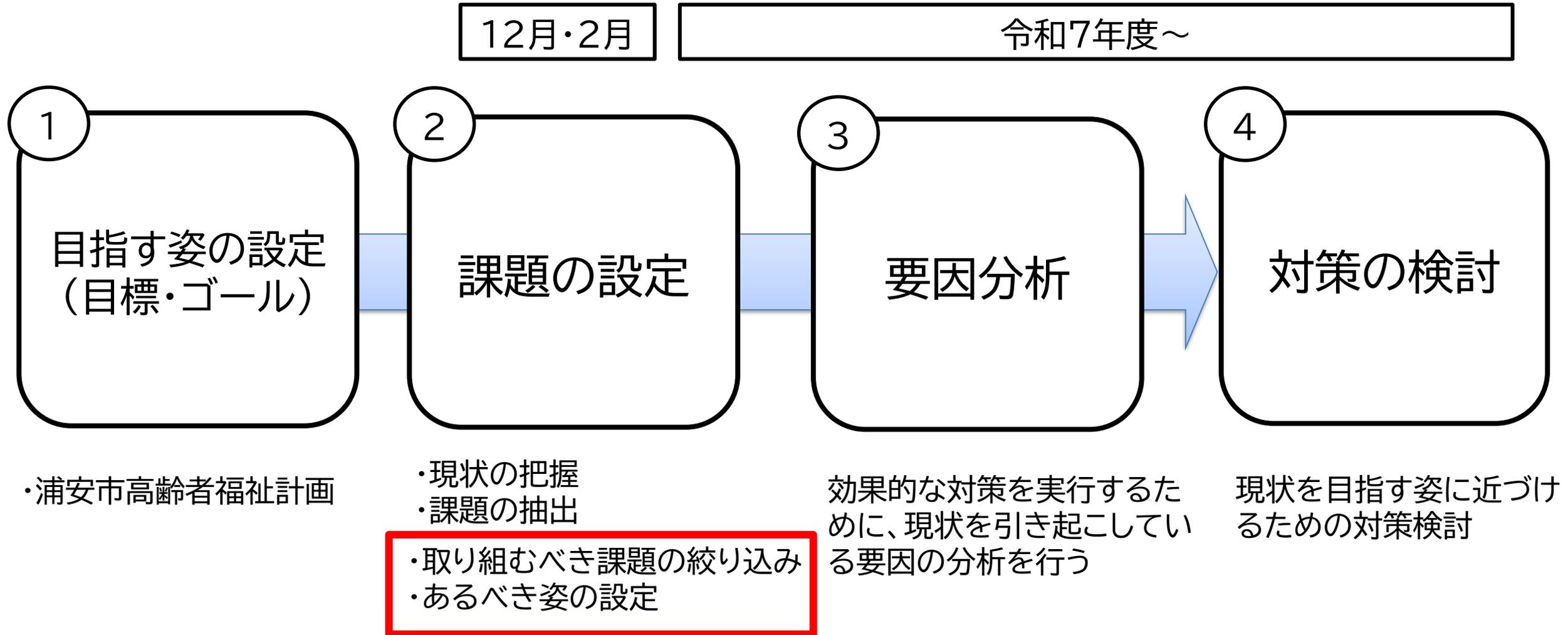
# まとめ

- ・4つの場面についてグループワークを行うことで、それぞれの職種・機関が感じている課題が抽出された。
- ・抽出された課題をみると、場面は異なっても共通する課題が多い。
- ・4つの場面に共通する課題が、「取り組むべき課題」となる。

## 取り組むべき課題

- 在宅医療・介護の関係者(機関)が連携することで解決に近づくことができる課題
- 根本的な支援に繋がる課題

# 令和7年度の取り組み



# 検討・意見交換

取り組むべき課題を絞り込むための検討を進めるにあたって・・・

## 【議題】 単身高齢者への支援について現状感じている課題

- 部会で出た課題への補足
- 日頃の支援を行う中で感じる課題
- 医療・介護の関係者(関係機関)が連携し、解決できると思う課題について

# 事務連絡

- 次回の委員会

- 令和7年度は2回開催の予定。第1回は6月以降を予定しております。

- 次期任期の委員・部会員の推薦依頼

- 今期の任期は令和7年3月31日で終了します。
- 各所属に次期任期の委員・部会員の推薦依頼をしております。よろしくお願ひします。